

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

98



市民病院 院長 かわい さとる 川井 覚

消化器外科医がいなくなる？

私は消化器外科医として30年以上医療に携わってきましたが、近年、消化器外科医のなり手が減ってきているように感じています。

実際、厚生労働省の推計によれば、2040年には消化器外科医が約5,200人不足し、胃がんや大腸がんになっても手術がなかなか受けられないといった事態にもなりかねません。

消化器外科医は、予定された消化器がん手術を行うだけでなく、急性虫垂炎や腹膜炎、胆のう炎、腸閉塞などの緊急手術を担うことも多くあります。長時間労働に加え、夜間・休日対応が常態化しており、高度な技術と集中力が求められます。責任は重く、訴訟リスクも高いとされています。

一昔前は「使命感」や「やりがい」を感じて外科医を志す医学生や研修医も一定数いましたが、近年では、他の診療科と報酬がほぼ変わらない現状に対し、「コストパフォーマンスが悪い」と感じ、進路として選択しない若い医師が増えてきています。

実際、全国の病院では外科医の平均年齢が50歳を超え、高齢化による体力的な限界も顕在化しているといわれています。このままでは、現在提供できている手術体制を維持できなくなる恐れがあり、手術待機期間の延長や、緊急手術への対応困難など、市民の命が脅かされる事態にもつながりかねません。

もちろん国も静観しているわけではなく、働き方改革の推進や、職務の専門性と肉体的・精神的な負担に見合った待遇改善を診療報酬に反映させるなどの対応を進めていますが、いまだ十分とは言えません。

将来、AIロボットが手術を行う時代が来るとも予想されていますが、人の手を介さず安全に手術が行えるようになるまでには、なお時間がかかると考えています。

一人前の外科医になるには、経験だけでなく習得すべき技術も多く、これまで最低でも10年は必要とされてきました。しかし、医療DXの進展は目覚ましく、将来的には5年程度で専門医を育成できるようになることを期待しています。医療難民を生まない社会の実現を願っています。

市民病院公開講座「認知症を正しく学ぼう」

問合 市民病院地域医療センター
☎28-5151 内線3410

認知症と聞いて皆さんはどう考えられるでしょうか？認知症について正しく理解することで、ご本人やご家族が笑顔で元気に生活できるよう、効果があると言われている予防方法から認知症の方への適切な対応方法など、様々な情報を紹介します。

日時 6月5日(金) 午後2時～3時

対象 どなたでも(当院に通院していない方も参加可)

場所 市民病院2階講義室

参加費・申込 不要

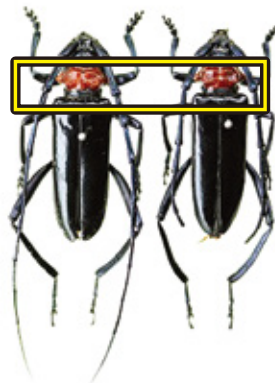
講師 市民病院認知症看護認定看護師

特定外来生物クビアカツヤカミキリにご注意ください

ID 224544300 問合 生活環境課環境保全G ☎55-9368

特定外来生物クビアカツヤカミキリ(図1)は、主にサクラ、ウメ、モモなどの樹木の幹や主枝の割れ目に産卵し、幼虫が木の内部を食い荒らす害虫であり、加害された樹木は衰弱し、枯死する原因となっています。

羽化のピークは6月中旬～7月中旬です。クビアカツヤカミキリを生きたまま運搬することは、法律で禁止されています。見つけたらその場で駆除をお願いします。生息範囲を把握するため、ご自宅の庭木で図のようなカミキリムシやフラス(木くず、糞の混合物(図2))を見つけた方は、下記までご連絡とオンライン(外来カミキリムシアンケート)での登録をお願いします。



この部分が赤いのが特徴です

◀ 図1 クビアカツヤカミキリ
(左が雄、右が雌)
戸田尚希氏 撮影



◀ 外来
カミキリムシ
アンケート



▲ 図2 フラスの様子